

新技術と社会づくりに関する特別委員会 議事次第

令和8年5月15日(金)
午後1時30分～
於：第5委員会室

1 開 会

2 中間報告

3 委員会活動のまとめ

4 そ の 他

5 閉 会

新技術と社会づくりに関する特別委員会 出席要求理事者名簿

【総合政策環境部】	
デジタル政策推進課長	後 藤 幸 宏
※ 脱炭素社会推進課長	原 圭 太 朗

【商工労働観光部】	
※ 商工労働観光部副部長 (産業創造担当)	安 達 雅 浩
※ 商工労働観光部理事 (情報基盤担当)	高 橋 義 典
※ 産業振興課長	森 本 耕 次
染織・工芸課企画参事	里 村 佳 代
文化学術研究都市推進課長	芝 田 雅 貴
※ 人材育成課長	田 中 一 成

【農林水産部】	
※ 経営支援・担い手育成課参事	片 岡 未 裕 希
※ 流通・ブランド戦略課参事	中 澤 尚
※ 農産課長	藤 田 信 也
※ 林業振興課長	中 井 哲 弘

【建設交通部】	
※ 指導検査課長	坂 晃 昭

(計 13 名)

※ 議事内容に応じ、必要な理事者を適宜追加

※ 新任理事者

令和8年5月 日

京都府議会議長 荒 卷 隆 三 殿

新技術と社会づくりに関する特別委員長 森 口 亨

新技術と社会づくりに関する特別委員会中間報告書

京都府議会議規則第46条第2項の規定により、令和7年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。

(別紙)

新技術と社会づくりに関する特別委員会中間報告書

1 本委員会の設置目的

AI、IoTなどの先端技術を活用した新産業の創造や京都産業の多様性を生かし、人材確保策をはじめ様々な分野の課題の解決を図るとともに、脱炭素社会の実現に向けた施策について調査し、及び研究する。

2 本委員会の活動状況

(1) 委員会の開催について

- 令和7年6月10日、第5委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行った。
- 令和7年6月26日、第5委員会室において、「産業創造リーディングゾーンにおける取組について」をテーマに、関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年9月29日、第5委員会室において、日本アイ・ビー・エム株式会社 IBM Research テクノロジー・エンゲージメント 理事 高橋 志津 氏を参考人として招致し、「半導体産業の現状と展望について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、半導体開発の現状と同社での事業、量子コンピューティングの産業応用、半導体研究における生産連携について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年12月15日、第5委員会室において、株式会社柳土木設計事務所 代表取締役、柳土地家屋調査士法人 代表社員 柳 和樹 氏を参考人として招致し、「林業分野における新技術の活用について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、森林調査DXサービスの概要と活用事例について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和8年3月10日、第5委員会室において、アクセント株式会社 AIセンター長 保科 学世 氏を参考人として招致し、「生成AI時代の社会とビジネスの新しい可能性について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、生成AIの発展が企業や社会にもたらす影響について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。

○ 令和8年5月15日、第5委員会室において、-----

(2) 管外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

○調査日：令和7年8月25日

調査先：香川大学、香川県庁〔於：香川大学三木町農学部キャンパス〕
(香川県木田郡三木町)

調査事項：香川大学における希少糖の技術研究と産学官の連携について

希少糖とは、自然界に微量しか存在しない単糖とその誘導体の総称であり、現在までに50種類以上が確認されている。香川大学は、2000年代初期に果糖から希少糖の一種である「D-アルロース」を大量生産する技術を確立した。D-アルロースは、甘みを感じる一方で、血糖値の上昇を抑制し、脂肪の燃焼を促進するなど、健康への効果が期待されている。

同大学では、希少糖の生産に関する研究と教育を行うことを目的として、農学部キャンパス内に希少糖生産ステーションを設置している。本ステーション内には、希少糖の生産条件の確立に向けた研究などを行う「分析室」、実験データの一元的な管理などを行う「情報室」、希少糖の全生産工程を実験室内で完結できるように整備した「生産室」の3つを備えることで、希少糖の生産及び分析に特化した施設として機能している。

また、同大学は、松谷化学工業株式会社と共同で、D-アルロースの食品分野への実用化を進めており、香川県内に製造プラントを建設。さらに、同社は米国の穀物メジャー企業と提携し、2019年にはメキシコに希少糖純正品専用工場を新設した。これにより、より安価な希少糖の生産が可能となり、D-アルロース結晶品を逆輸入する形で、2021年から全国で販売している。

現在、希少糖は世界15か国以上で販売許可を取得しており、市場規模は2028年に22.8億ドル、D-アルロース市場は2027年に3.551億ドルに達すると予測されている。また、D-アルロースを使用した食品は、現在、約3,600種類にのぼる。

希少糖は食品分野だけでなく、農業や医療など多様な産業分野で活用されており、今後さらに広がることが期待されているとのことであった。

○調査日：令和7年8月25日

調査先：株式会社 Raise the Flag. (香川県高松市)

調査事項：視覚障害者支援における先進技術の活用について

株式会社 Raise the Flag. は、「視えないことは“不便”なだけで“不幸”では

ない」という理念を原点に創業し、現在は視覚障害者向けの製品「SYNCREO（シンクレオ）」の開発を進めている。

SYNCREOは、従来の支援機器とは異なり、視覚障害者が自ら行動し、学び、働く力を身につけることを可能にするもので、「障害年金の受給者から納税者へ」「サービスの受け手から提供者へ」といった立場の転換を促すことを目指している。SYNCREOは、カメラを搭載した装置をおでこ部分に装着することで、距離に応じた音や振動をリアルタイムで伝え、視力を使わずに周囲の空間状況を把握することが可能となっている。また、視覚障害に特化した生成AIとデバイスから得られる距離情報を組み合わせ、音声で「何がどこにあるか」を伝える機能を備えている。これにより、郵便物の読み上げや、買い物時の商品・価格の認識も可能となっている。

現在、白杖や盲導犬、案内アプリなどの支援策はあるものの、視覚障害者が空間を把握し、自ら判断して行動するという根本的な課題には十分に対応できていない。その結果、支援に依存した生活が続き、事故や怪我への不安、単独での移動や判断の困難さから、教育・就労・日常生活における自由と選択肢が制限されている。

こうした課題に対して、SYNCREOを使用することで、自立の促進、家族の介護負担の軽減、就労機会の拡大、生活の質の向上につながることを期待され、合理的配慮の限界を補完する新たな支援の形として、社会構造の変革に寄与する可能性があるとのことであった。

○調査日：令和7年8月26日

調査先：国土交通省四国地方整備局四国技術事務所（香川県高松市）

調査事項：建設用3Dプリンタの活用とインフラDXの推進について

国土交通省四国地方整備局は、国内で初めて建設用3Dプリンタを活用して目的構造物を製作する公共工事を実施した。3Dプリンタを活用することで、施工に要する手間と時間を削減し、複雑な地形にも柔軟に対応した施工を可能にするなど、現場の省力化・効率化が期待されており、今後の活躍機会の拡大も視野にしている。

また、同整備局では、インフラ分野におけるDX推進を目的として、各部局が横断的に連携する「四国地方整備局インフラDX推進本部会議」を設置し、「地域建設業の担い手確保」「行政手続きや暮らしにおけるサービス改革」「四国地方整備局職員の働き方改革」の3つの方向性を掲げている。

具体的な取組では、「地域建設業の担い手確保」に向けては、ICT施工の推進に加え、施工のオートメーション化や施工管理へのBIM/CIMデータの活用を進め、生産性の向上に取り組んでいる。また、受・発注者や学生を対象に、建設生産プロセス全体（測量・設計・施工・維持管理）におけるICT・デジタル技術の

知識習得の機会を提供する場として、「DX人材育成センター」を設置し、各種技術の体験を展開している。

「行政手続や暮らしにおけるサービス改革」としては、建設やインフラ整備に係る行政手続の電子化を推進し、利用者の利便性とサービスの向上を図っている。併せて、行政情報の電子化とデータのオープン化を進めている。

「四国地方整備局職員の働き方改革」としては、RPAの導入による業務の自動化・効率化を推進している。これにより、災害情報の収集効率化をはじめ、日常管理業務の高度化・効率化を図っているとのことであった。

○調査日：令和7年8月26日

調査先：笠岡市議会（岡山県笠岡市）

調査事項：AIによる管路劣化診断を活用したインフラ保全の効率化について

笠岡市では、AIを活用した水道管の劣化予測診断を導入し、インフラ保全の効率化及び更新計画の最適化を進めている。従来は、管種や設置経過年数などに基づき職員の経験的な判断により更新対象を決定していたが、AIによる診断では、全国環境ビッグデータと市内の管路情報を照合することで、より精度の高い劣化予測が可能となっている。

診断結果は、「絶対評価（全国基準）」と「相対評価（市内基準）」の二つの観点から示され、漏水リスクの高い管路を特定することができる。AIの診断精度は、過去の漏水データとの照合による検証や、試掘調査により実際の管の状態を確認した結果、AI診断との整合性も得られており、高い予測精度が確認されている。

これらの成果を踏まえ、令和7年度からの更新計画では、従来の基幹管路に加え、配水支管も対象とし、目標耐用年数を60年から100年に延長する方針が示されている。

更新計画の見直しにより、重要管路及び劣化度の高い配水支管を優先的に更新する方針が示されており、財政シミュレーションにおいては、人口減少や物価上昇といった要因を考慮しても、健全な経営が維持できるとされている。

また、AI診断結果を漏水調査に活用することで、調査対象エリアを市内全域から約30%にまで絞り込むことが可能となり、調査費の削減及び早期修繕対応につながっているとのことであった。

3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和7年4月から10月にかけて、けいはんな万博2025運営協議会は、けいはんな学研都市において、「けいはんな万博2025」を開催し、期間中に、「ロボット・アバター・ICTフェス」、「ウェルビーイングフェス」、「オープンラボ・テックツアー」などの各種イベントを実施するとともに、京都府は、精華大通りにおけ

る自動運転バスの実証運行（レベル2（部分運転自動化））を含む、複数台遠隔監視の実証実験を行った。

- 令和7年7月、IVS KYOTO実行委員会は、国内外の起業家・投資家などが一堂に会し、直接交渉による投資・協業先・人材などの獲得や、各分野の最新動向の把握と多様な人材の交流を契機とした新ビジネス創出を促進する、国際スタートアップ・カンファレンスである「IVS2025」を開催した。
- 令和7年9月、京都府及び京都市は、府市協調のもと「SEMICON Taiwan 2025」、令和7年12月「SEMICON Japan 2025」のそれぞれにおいて、半導体産業の更なる発展を目指し、京都企業のビジネスマッチングや販路開拓を目的に京都パビリオンを設置した。
- 令和7年12月、京都府は、策定された令和32年（2050）温室効果ガス排出量実質ゼロの脱炭素社会の実現に向けた施策の基本的方向を示す「京都府環境基本計画（第3次）」について、環境行政を取り巻く状況の変化を踏まえ、新たな考え方や課題、それらに対応する施策を盛り込む改定を行った。
- 令和8年2月、ZET-summit実行委員会は、国内外の脱炭素テクノロジー関係者（スタートアップ、大企業、研究者など）が一堂に会し、新たな交流と共創を目的とする国際カンファレンスとして「ZET-summit2026」を開催した。
- 令和8年3月、京都府は、令和32年（2050）に温室効果ガス排出量の実質ゼロを達成するために必要な省エネ施策や再生可能エネルギーの導入・利用促進等を推進するため、京都府地球温暖化対策条例及び京都府再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例を改正した。

4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 府民に向けた脱炭素社会実現に向けた取組の周知
- 多様な京都産業の連携・融合による持続可能な産業社会の創造
- 新技術を活用した生産性の向上や人材不足への対応

新技術と社会づくりに関する特別委員会 活動状況 <付録>

(令和7年5月～令和8年5月)

年月日	区分	主な内容
7. 5.23	委員会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
5.25	管内調査	▷ けいはんなアバターチャレンジ (行催事等委員会調査)
6.10	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6.10	委員会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 今後の委員会運営
6.13	管内調査	▷ けいはんな万博2025 Well-Being Festival (行催事等委員会調査)
6.17	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6.26	委員会	1 所管事項の調査 「産業創造リーディングゾーンにおける取組について」 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
7.25	管内調査	▷ けいはんな万博2025 スタートアップフェス (行催事等委員会調査)
8.25 ～26	管外調査	▷ 香川大学、香川県庁〔於：香川大学三木町農学部キャンパス〕 ▷ 株式会社 Raise the Flag. ▷ 国土交通省四国地方整備局四国技術事務所 ▷ 笠岡市議会
9.18	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
9.21	管内調査	▷ けいはんな万博2025 シンポジウム 不確実性ととも生きる—未来への鍵 (行催事等委員会調査)
9.29	委員会	1 所管事項の調査 「半導体産業の現状と展望について」 参考人：日本アイ・ビー・エム株式会社 IBM Research テクノロジー・エンゲージメント 理事 高橋 志津 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
10. 2	管内調査	▷ 京都スマートシティエキスポ2025オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)

年月日	区分	主な内容
10.11	管内調査	▷ けいはんな万博2025 閉会セレモニー (行催事等委員会調査)
12. 5	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12.15	委員会	1 所管事項の調査 「林業分野における新技術の活用について」 参考人：株式会社 柳土木設計事務所 代表取締役 柳土地家屋調査士法人 代表社員 柳 和樹 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
8. 2. 2	管内調査	▷ ZET-summit2026 オープニング (行催事等委員会調査)
2. 2	管内調査	▷ ZET-summit2026 交流会 (行催事等委員会調査)
2.11	管内調査	▷ 京都環境フェスティバル2026 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
2.21	管内調査	▷ アンドロイドお披露目 記念シンポジウム (行催事等委員会調査)
3. 9	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
3.10	委員会	1 所管事項の調査 「生成A I時代の社会とビジネスの新しい可能性について」 参考人：アクセンチュア株式会社 A Iセンター長 保科 学世 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
5.15	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営
5.15	委員会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ

委員会 7回
正副委員長会 6回

管内調査 10回(9日)
管外調査 1回(2日)

新技術と社会づくりに関する特別委員会 管内外調査実施状況

1 管内調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5.10. 5	▷ 京都スマートシティエキスポ 2023 オープニングセレモニー
	6. 2. 3	▷ 京都環境フェスティバル 2024 オープニングセレモニー
	2. 6	▷ ZET-summit 2024 オープニング
	2. 6	▷ ZET-summit 2024 交流会
6	6.10. 3	▷ 京都スマートシティエキスポ2024 オープニングセレモニー
	7. 2. 1	▷ 京都環境フェスティバル2025オープニングセレモニー
	2. 4	▷ ZET-summit2025 オープニング
	4.13	▷ けいはんな万博 2025 開会式
7	7. 5.25	▷ けいはんなアバターチャレンジ
	6.13	▷ けいはんな万博2025 Well-Being Festival
	7.25	▷ けいはんな万博 2025 スタートアップフェス
	9.21	▷ けいはんな万博2025 シンポジウム 不確実性ととも生きる —未来への鍵
	10. 2	▷ 京都スマートシティエキスポ 2025 オープニングセレモニー
	10.11	▷ けいはんな万博2025 閉会セレモニー
	8. 2. 2	▷ ZET-summit2026 オープニング
	2. 2	▷ ZET-summit2026 交流会
	2.11	▷ 京都環境フェスティバル2026 オープニングセレモニー
	2.21	▷ アンドロイドお披露目 記念シンポジウム

2 管外調査及び管内外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 28 ～29	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 福井県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県における生活D X推進の取組及びデジタルデバイド対策について ▷ まちづくり株式会社ZENコネクト <ul style="list-style-type: none"> ・ レベル4自動運転による移動サービスの取組状況について ・ 施設視察 ▷ 公益社団法人富山県農林水産公社スマート農業普及センター <ul style="list-style-type: none"> ・ スマート農業の推進について ・ 施設視察 ▷ アルハイテック株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・ アルミ廃棄物を活用した水素エネルギーの普及について ・ 施設視察
6	6. 8. 22 ～23	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 株式会社浜田京都 PV リサイクルセンター〔於：八幡市文化センター〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光パネルのリサイクル・リユースについて ・ 現地視察 ▷ 広島大学デジタルものづくり教育研究センター <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会実装に向けた研究開発活動と高度産業人材を育成する新たな拠点について ・ 施設視察 ▷ 広島県議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 土木とDXを組み合わせたDoboXの取組について ▷ 積水化学工業株式会社 <ul style="list-style-type: none"> ・ フィルム型ペロブスカイト太陽電池について ・ 施設視察
7	7. 8. 25 ～26	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 香川大学、香川県庁〔於：香川大学三木町農学部キャンパス〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 香川大学における希少糖の技術研究と産学官の連携について ・ 施設視察 ▷ 株式会社Raise the Flag. <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害者支援における先進技術の活用について ・ 施設視察 ▷ 国土交通省四国地方整備局四国技術事務所 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建設用3Dプリンタの活用とインフラDXの推進について ・ 施設視察 ▷ 笠岡市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ AIによる管路劣化診断を活用したインフラ保全の効率化について